

# 月刊 動労千葉

## 動労千葉結成10周年!

国鉄千葉動力車労働組合  
 〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)  
 電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
 (公) 千葉 (22) 7207 番

1989.8.30 No. 3077



8/26 活発な討論を通し、佐藤芳夫氏、中野委員長の提起も己々がわがまだった。

### 第Ⅲ期 第4回講座 労働学校 40名結集学ぶ

八月二十六日、「『連合路線』とは何か?」をテーマに、佐藤芳夫さんを講師に招いて、第三期労働学校第四回講座が開催された。講座には四〇名をこす組合員が結集し、この秋の総評解散、「連合」結成という、労働運動の大きな再編の嵐のなかで、真に闘う労働運動を守りぬき、創りあげることの重要性を全参加者

# 「連合」を許さない 新たな潮流を!

があらためて再確認した。佐藤さんは、「黄金の六〇年代」「激動の七〇年代」、そして八〇年代と、それぞれの時代背景のなかで、敵の攻撃のもとに、いかに戦後労働運動が屈服を続け、骨をぬかれてきたかを後づけながら、「連合」の基本路線として、五月二四日に「合意」された「連合の進路」を具体的に批判し、「『連合の進路』には、資本に対して毅然たる態度をとるといふことは全くできてこないにもかかわらず、戦闘的労働運動を進めようとする勢力に対しては『毅然たる態度をとる』『自らの力で排除する』ということがくり返し語られている。労働統一とは、右翼再編というより、国家機構そのものの再編である。労働運動を国家機構に統合しようとする攻撃である。かつての産業報国会は、すでに日本帝国主義が侵略戦争に突進している状況のなかで結成されたが、

現在のこの時代に産業報国会をつくることは、産報よりもっと悪質である」と結論づけた。佐藤さんの講演について、「一万人の交流センターを全国に創りあげよう」という中野委員長

の提起を受け、最後に、活発な質疑応答がおこなわれた。秋の闘いに向けての重要なステップとして大成功のうちに終了した今回の講座の成果を全組合員のものとして、広げ学びうち固めよう。

「労働者に分裂をもち込む『連合』」  
 一九五〇年結成された総評は、九月二一日「解散方針」を決定し、十一月二一日、官民含めた新「連合」に吸収、合併されようとしている。

## 全国労働者総決起集会にあつまるう

「全国交流センター」は、十一月総評解散、「連合」への吸収・合併という右翼労働統一攻撃にたいし、九月十日、目黒区民センターホールで反「連合」・反統一労働組、全国労働者総決起集会を開催する。この呼びかけに応え、全力で結集しよう

日時 九月十日(日)午後一時開会  
 会場 目黒区中小企業センターホール  
 (目黒区民センター内)  
 (目黒区下町三丁目一〇分)

労働者の切実な要求に耳を傾けようともせず、スト権すら確立しない「連合」傘下の多くの労働組、このよきな勢力にわれわれの未来をゆだねる訳にはいかない。

「連合」との対決からの逃げ道でしかない。すべての組合員は、「反『連合』、反統一労働組」懇全国労働者総決起集会に集まろう!

九・一〇総決起集会へ  
 労働者の切実な要求に耳を傾けようともせず、スト権すら確立しない「連合」傘下の多くの労働組、このよきな勢力にわれわれの未来をゆだねる訳にはいかない。

「連合」との対決からの逃げ道でしかない。すべての組合員は、「反『連合』、反統一労働組」懇全国労働者総決起集会に集まろう!

「え方」を全面的に否定し「労使協調」を掲げ、現場の労働者の要求より、資本の意を優先させ、それに反対する者は排除する「労働」になることはまちがいない。

それは、JR総連(鉄道労連)を見れば火を見るより明らかである。いま、「連合」への参加をめぐって、総評傘下の組合は分裂が相次いでいる。自治労、日教組、その他総評傘下の組合のほとんどが分裂をしまっている。労働「統一」という攻撃は、実は戦後始まって以来の労働組合の大分裂だ。

大東亜共栄圏を叫ぶJR総連・松崎を認める「連合」。「われわれの『連合』結成への努力を右翼再編と一方的にきめつけ教条的な誹謗、妨害をはかろうとする団体、組織に対しては、毅然として対応していく」「労働界におけるあらゆる独善的利己的勢力に対し……分裂工作を自らの力で排除する」「(『連合の進路』)として、たかろう労働組を排除することを目的としている「連合」。

われわれは、このような労働「統一」を認める訳にはいかないのである。また、日共が進める統一労働組(たかろうナショナルセンター)も、分裂を持ち込むだけであり「連合」との対決からの逃げ道でしかない。

全組合員が血を流し、涙を流し、勝利した10年!